

Latvija

第5号
(2006年8月1日発行)

日本ラトビア音楽協会ニュース

日本ラトビア音楽協会事務局

〒229-0014 神奈川県相模原市若松1-14-10 遠藤税理士事務所内
Tel 042-745-3334 Fax 042-740-4725
E-mail 0424668801@jcom.home.ne.jp

発行代表者

加藤晴生
〒277-0823 千葉県柏市布施新町2-18-9 Fax 04-7132-5423
Tel 03-3568-7227 Fax 03-3568-7229
E-mail katohr@earth.ocn.ne.jp
kato@heisei-business.co.jp

編集代表者

徳田浩
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田3-31-6-504 柔道新聞編集室
Tel・Fax 03-3203-0363
E-mail htoku@pastel.ocn.ne.jp

特別インタビュー

質問者 徳田 浩 (Latvija編集長)

P. ヴァイヴァルス初代駐日大使に聞く

徳田 大使には極めてご多忙の中、インタビューを快諾いただきありがとうございます。私たち日本ラトビア音楽協会は、音楽を通じた両国間の更なる交流を願う日本各界の中核者により、2004年に設立・発足した非営利団体です。「Latvija」の定期刊行、ホームページ開設、講演会、日本でのラトビア音楽普及発展サポート、演奏団体・指揮者の交流などを通して、着実に貴国への関心を高める活動を始めています。先ずは大使館開設を心からお祝い申し上げます。私どもにとっても大きな喜びです。最初に、初代大使としての基本的な考えと、私ども協会会員へのメッセージを戴きたい。

大使 大使館開設に皆様から丁寧なお祝いの言葉をいただき有難うございます。先日、リガから首相が来日して行ったオープニングセレモニーでは、日ラ音楽協会の皆様に大変な協力をいただきました。又多くの素晴らしい参加者に恵まれました。しかしながら、率直に申し上げてまだまだいくつかの大きな課題を抱えています。私どもは現在、ネットワークの構築、ハードウェアなどの整備段階です。事務所内のコンピューターもまだ正式に稼動していません。大使館は民間住宅を借用していますので、事務所に改装しなければなりません。これらのハードウェア整備には3~4ヶ月かかるでしょう。

さらに当面の重要事は、良い友人や、ラトビアに国益をもたらしてくれる我々にとって重要な人々と良い関係を構築することです。政治の分野はもちろん、多くのメディア・ビジネスの分野、芸術・音楽家、スポーツの分野などにしっかりしたネットワークを構築したいということです。特に文化の分野は、異なった国の人々が深く理解し合うために極めて重要です。

そういう意味で、私が赴任する前から貴協会が様々な活動をされていることを高く評価すると共に、ラト

ビアのために尽力されていることに深く感謝しています。私は、皆様の活動に出来る限り協力・フォローすることをお約束します。さらに、人物の紹介や必要とされるハードウェアなども十分サポートできると思います。

徳田 とても力強い言葉を戴き、ありがとうございます。出来るだけ緊密に連絡させていただきます。さて、今日のインタビューの主目的は、大使の経歴や豊かな人間像を、当協会会員や日本の音楽愛好家に知らせたいということです。自己紹介をお願いできますか。なるべく、大使の公式紹介に記載されていないこととお話ください。併せて日本の印象をお聞かせください。

大使 カルヴィティス首相から日本大使に任命されましたが、大変名誉なポジションと受け止めています。日本は本当に美しい素晴らしい国で、この国の初代大使に選ばれたことはとても光栄です。日本についての印象は、伝統から先端技術まで、文化の幅広さです。自然も文化も極めて多様です。経歴書にあるかも知れませんが、大学はエンジニアリング専攻で、外交官としてはとても珍しいキャリアです。自分の仕事を振り返ると、ラッキーだったと思います。国が独立してすぐに外務省へ入りました。最初の任地はフィンランドで、その頃は北欧、スカンジナビア関係の2番目の地位でした。

大使としての初仕事は97年からウクライナ特命全権大使を務めました。ウクライナは美しくとても興味深い国でした。首都キエフに駐在し、ルーマニア、モルドバ両国の大使を兼務しました。

2000年に本国へ戻り、外務省のナンバー3の地位につきました。外務省を正常に機能させる責任者ということで、財政、情報、安全、外国にオフィスを開設することなどが私の主要な仕事でした。この間、セルビア・モンテネグロ大使を兼任しまし

た。その後、カルヴィティス首相から、日本に大使館を開設するための予算作りを指示されて来日し、調査が終わって本国へ戻って正式に大使になるよう云われました。日本では一人息子と一緒に暮らします。中学生でアメリカンスクールに通う予定です。スポーツが大好きで、8歳の頃からフォークダンスをやっています。ラトビア文化の紹介役をしてくれると思います。

徳田 ラトビア人の音楽好きは世界的に知られています。大使はどんな音楽・音楽家がお好きですか。ご自身で演奏されることはありますか。多忙な公務の中、現在どんな風に音楽を楽しんでおられますか。

大使 ラトビア人は歌が好きです。上手です。“誰が誰より上手い”というレベル、つまり殆どどのラトビア人が歌うということです。私自身も音楽は大好きです。ラトビアのオペラは世界でもトップレベルだと思います。ウクライナ国立フィルの方々、特にアンドレス・ジャーバスとは特別に親密な関係を続けています。も

ちろん私も歌います。ただ私のレベルでは近い関係の人たちと歌うだけで人前では歌えません。こちらに赴任してまだ2週間で、今のところラジオとかCDで楽しんでいます。やはりラトビアの音楽をよく聴きますが、日本の演奏家・歌手を知りたいと思っています。皆さんはクラシック・ポップスを問わず、いろいろなコネクションをお持ちでしょうか、私が好きになれる音楽家を自分自身で見つけ出したいと思っています。2月にラトビアの外務大臣が来た時、一緒に沖縄へ行ってCDを買ってきました。楽しみに聴いています。

(次ページへ続く)



『文化交流は異なった国の人々が深く理解し合うために極めて重要。日ラ音協の活動を高く評価し、深く感謝しています』

ベータリス・ヴァイヴァルス氏

1963年7月17日、ラトビア国ルビャナ市生まれ。43歳。86年、リガ技術大学オートメーション・コンピューティング・テクニク専攻卒業。95年3月から4ヶ月間、オランダ・ハーグのクリンゲンテール国際関係大学に留学。

リガ技術大学学生組合委員会代表代理、ラトビア青少年組織委員会の上級委員、有限会社SSTF理事などを経て、92年ラトビア外務省

に入省し上級外務事務官、北欧・バルト責任者。95年~97年駐フィンランド大使館一等書記官。97年駐ウクライナ特命全権大使(ルーマニア・モルドバ大使兼任)。00年外務省次官。03年駐セルビア、モンテネグロ大使。06年4月初代駐日ラトビア特命全権大使として着任。7月10日、天皇陛下へ信任状奉呈。言語はラトビア語の他、英語、ロシア語に長ける。

ラトビア首相訪日

日本・ラトビア関係「新たなハイ・レベル」へ到達

前ラトビア日本国大使館臨時代理大使
田中 享



さる4月19日より24日の間、カルヴィティス・ラトビア首相一行は、経済ミッションを率いて、在京ラトビア大使館の開設祝賀の機会を捉えて日本との関係強化を図るため訪日しました。本日はそのハイライトをご報告したいと思います。

同首相一行は4月18日リガを出発、19日午前成田空港に到着、空港には在スウェーデン大使館大使（在ラトビア本任大使）およびヴァイヴァルス初代ラトビア大使が出迎えました。首相一行は宿舎帝国ホテルに到着後、午後からJETRO本部を訪問して今後の経済交流の強化について意見交換を行い、また翌20日午前には、渋谷区上山町に選定した新しいラトビア大使館事務所を訪問し開所式を行いました。午後には最大のハイライトとなった小泉総理との会見が行われました。引き続き同日夕刻には、帝国ホテルにおいてラトビア大使館開設祝賀レセプションが開催され、政界、実業界、学会、旅行業界各から多数の来賓、祝賀客が出席し、盛況裏にとりおこなわれました。冒頭、日本ラトビア音楽協会の協力等により両国国家を斉唱した後、歌手の加藤登紀子さんが「百万本のバラ」を歌い、満場拍手のうちに祝賀と友好の雰囲気盛り上がりしました。

翌21日には三菱商事、日立製作所、JTB各社のトップを精力的に歴訪、首相自ら経済交流の促進をアピールしました。また昼食時には日本旅行業界代表を招待しラトビアへの観光促進を訴え、同日午後には経団連本部を訪問、改めてラトビアへの投資促

進を求めました。夕刻には麻生大臣主催の歓迎夕食会に出席し、今後の友好促進と二国間関係の強化につき緊密な話し合いを行いました。これらの行事の間、NHKはじめ各新聞社とのインタビューをこなし、その後22日、23日には地方視察旅行、24日離日しました。

今回のカルヴィティス首相の訪日は、大の親日家でもありまた日本との関係強化をきわめて重視する同首相が、歴史上初めて日本にラトビア大使館が開設される機会を捉えて訪日したものです。これに対して日本政府も積極的に応じ充実した受け入れ準備を行った経緯があります。また日本の大企業や経団連も異例の大歓迎をしてくれました。

現在のカルヴィティス政権は、国民の支持率も高く安定政権を維持していますが、EU加盟後におけるラトビアの対外政策における最優先課題の1つはアジアにおける自由世界の代表としての日本との関係強化であると見定め、パブリクス外務大臣と密接に協力して日本の国連における一層大きな役割を積極的に支持するなど、これまで外交面でも日本重視策を強力に打ち出してきました。今回の訪日はこのような一連の流れの頂点をなすものであり、今次訪日によって日本とラトビアとの関係は名実ともに飛躍的に高いレベルに格上げされ、画期的な意義ある訪問となったといえましょう。首相は強行スケジュールにもかかわらず、終始上機嫌で微笑を絶やさず、日本の各界

していただいた加藤さん（協会専務理事）に感謝しています。合唱団が国歌を歌ってくれた印象が強く残っています。CDではなく、生の国歌を聴いてとても感動しました。

徳田 私どもは、5年に1度、国を挙げて開催される「歌と踊りの祭典」に参加する機会があり、スケールの大きさと高いレベルに感嘆しました。次の08年は当協会が軸になって、遠いアジアの合唱の国・日本から、出来るだけ大人数で参加し、実りある草の根交流を果たしたいと考えています。大使館の全面的サポートを期待しています。

大使 100年以上の伝統がある我が国が誇るべき行事で、日本からの参

の人々にラトビアの魅力を訴え、大成功を収めました。

現在、初代駐日ラトビア大使として着任したヴァイヴァルス大使も大の親日家であり、首相、外相からの信頼もきわめて高い卓越した人物です。同大使は現在大使館の実際の開設準備に奔走していますが、現在大使館事務所と公邸は選定済みであり、現在建物の内装をラトビアから職人を呼んで美しいラトビア・スタイルのインテリアに鋭意改装中との

ラトビア大使館始動

同国首相主催レセプションに150余名出席

当協会も音楽面で盛り上げる

ラトビア共和国在日大使館開設記念レセプションが4月20日（金）夜、帝国ホテル孔雀の間で行われ、予定を上回る政官財界の関係者約150余名が出席した。主催したのは来日中のアイガルス・カルヴィティス首相で、ヴァイヴァルス初代大使、大使館員ともども出席者一人一人と親しく懇談し、終始和気藹々の雰囲気だった。当会からも藤井威会長ら10余名が出席して大使館開設を祝福し発展を祈念した。

冒頭に当会会員を中心にした稲門グリーククラブ有志19名が「ラトビア国歌」と「君が代」をアカペラで演奏（指揮・徳田浩常専務理事、歌ったのは93年にリガ・ギルド大ホールで公演したメンバー）、さらに会員の歌手・加藤登紀子さんが、ラトビア生まれの名曲で大ヒットした「百万本のバラ」を演奏して会場を盛り上げ、後半はラトビア語で歌って首相らラトビア関係者を感激させた。またラトビア人のサクソフォン奏者アルティス・ガーガさんが即興で鮮やかなアドリブ演奏に加わり、期せずして日ラ協演となって大きな拍手を浴びた。

音楽の国の指導者らしく首相・新

加は素晴らしいこと。沢山の方に来ていただけるよう、もちろん積極的にお手伝いします。具体的に誰にどうコンタクトするかも含めて…。

徳田 日本ラトビア音楽協会はスタートして2年が経過しますが、貴国内に同様の組織（ラトビア日本音楽協会）が設立されれば、もっと親交が深まると考えています。

大使 素晴らしいアイデアです。お互いの安定的な関係を継続することに大変効果的でしょう。ただ、直ぐには答えられません。関係者伝えたいと思いますが、今度の展開としては、先ずラトビアにキーになる人物を見付けることが必要でしょうね。

徳田 当協会では定期的に懇親会を

ことです。9月完成を目処としているとのことですが、かつてドイツを越えて北欧随一と謳われたラトビア建築のインテリア内装の「粋」を見られることが楽しみです。9月に大使館事務所が完成すれば、日本ラトビア音楽協会の皆様と輝かしい実績のある音楽交流分野を含めて、さらにビジネス、観光、学術、留学生交換等の分野においても、今後両国の交流が飛躍的に盛んとなることが強く期待されます。



首相が加藤登紀子さんに花束贈呈
右端は藤井威当協会会長

大使とも大変な音楽好きで、加藤さんに花束を贈ってしばし音楽談義に興じた。まだ39歳という若々しいカルヴィティス首相はカラオケが大好きで、得意曲は地元の人気ロックバンド、ブレイン・ストームの「ウエルカム・トゥ・マイ・カントリー」とか。さりげなくラトビアを音楽でPRするあたりはさすが。

ラトビア共和国首相の来日は今回が初めて、大使館開設の挨拶と、日本からの投資促進、両国の経済関係強化などを関係方面に精力的に訴え続けた。レセプションの様子はNHKでも放送された。

※同首相の日本での動向は田中亨前ラトビア日本国臨時大使が詳しく寄稿されました。ラトビア・日本ビジネスフォーラムに於ける同首相の演説全文と併せて別掲しました。

開いて会員相互の親睦を図っています。会員による音楽パフォーマンスも飛び出します。次回は是非ご参加ください。役員会に諮って、大使を名誉会員に推挙したいと考えています。10月には当協会主催で大使の歓迎会を企画しています。

大使 有難うございます。喜んで参加させていただきます。



インタビューを終えて 左から加藤専務理事、大使、徳田本紙編集長 写真でお分かりのように大使は堂々たる体の持ち主

大使インタビュー

（1面から続く）

徳田 私も歌が大好きで、人前では歌えないレベルですが親しい友人との合唱なら人前で歌えます。大使と是非合唱する機会があるよう願っています。ところで過日のレセプションで私どもが両国国歌を合唱し、著名なポップス歌手で協会会員でもある加藤登紀子さんがパウルス氏作曲の「100万本のバラ（邦題）」を演奏しました。出来ればご感想を。

大使 加藤登紀子さんがパーティに来てくれパウルスの有名な曲を実際に歌っていただいて本当に素晴らしい。とても印象的でした。尽力

アイガルス・カルヴィティス首相演説要旨

「大使館開設は、日本と豊かな関係を築こうとする強い決意のシンボルです」

06年4月19日 ラトビア・日本ビジネスフォーラム

ご列席の著名な皆さんにお話できますこと、ラトビア・日本両国間の実りある経済協力につながる設計図を示すことができますことは格別の喜びであります。

1542年、ポルトガルの開拓者アントニオ・ダ・モタが最初の欧州人として日本に上陸以来、欧州と日本は相互に相手の文化、哲学、技術に敬意を払ってきました。遠く離れていながら貿易も盛んに行われてきました。

最近のEUの拡大により、日欧の貿易関係に新しい展開の道が開かれました。ラトビアはEUの資格十分なメンバーとして、日本にとって重要な経済パートナーとなる用意があり、またそうなりたいと願っています。

ラトビア大使館は、明日私が公式に開館します。日本と豊かな関係を築こうとする強い決意のシンボルとなるものです。ラトビアに関するビジネスの照会や関心の窓口として利用されるようお願いいたします。私どもの大使館員は皆様にも十分お役に立てると思います。

ラトビアの経済について簡単にご紹介いたします。私たちの経済は、EUならびに世界主要国の中で急速に成長しています。2005年のGDPは驚異的な10.2パーセントの成長を遂げました。ラトビア通貨（ラツ）は現在ユーロに連動していますが、2008年までにユーロを採用している欧州通貨同盟に完全に加盟しようと計画しています。ラトビアは立地に恵まれ、4億5千万人の消費者がいる欧州市場や、急速に成長しているロシアやCIS諸国（訳者注：旧ソ連から独立したバルト3国を除く12カ国）の市場にも接近しています。ラトビアは開放経済を誇り、輸出振興と、特に知識集約産業への投資魅力を高めようとする力を入れています。手厚い政府誘導策と安定した経済環境の下で、外国からの投資を奨励しています。EUとNATOのメンバーであることが、安全保障を約束しています。さらに、ラトビアの最も価値ある資源は、良く教育され他国語に通じる労働力です。

◇

私たちは中央計画経済から市場経済への移行に成功し、元々西側に深く根ざした原理を今日のビジネス文化に植え付けることができました。



それにも拘わらず、多くのラトビア人は日本のビジネスの方法・考え方を賞賛しています。TQCやジャストインタイムなどは、ラトビアのビジネス界で広く取り入れられているコンセプトの代表例です。

私は、我々の企業経営手法に日本が一層影響を与えてくれることを心から願っています。私は、日産自動車工場における従業員の如何なる提案でも、製造工程に0.6秒以上の時間節減をもたらすものは経営者が考慮すると聞いて感動しました。かの有名な日本人の勤勉さを物語るものと考えます。私たちは日本における改善の思想や企業の社会的責任について大いに学ぼうと願っています。

◇

私は、ラトビア・日本間の経済協力が実るための実践的ビジョンを皆様と分かち合いたいと願っています。本日は、ラトビアの金融サービス及び木製品業界代表の発表をお聞きいただきたく存じますが、広範な協力機会は医薬品、食料加工、旅行などもあります。しかしながら、私は個人的に次の3つの経済協力に注目しております。つまり、1) 自動車生産、2) 電子工業、3) 輸送・物流であります。

1) 自動車生産

多くの大手自動車会社は製造工場を東欧に移しています。労働力は同じ質を持ちながら賃金は西欧の何分の一にしか過ぎません。ラトビアは自動車製造に長い伝統を持ち、その技能集団が再び復活しています。ボルボやスカニアの大型トラックのスペアパーツのみではなく、伝統的なポルシェ、フェラーリ、ベントレーの高性能冷却装置を製造しています。同様の協同関係を、ラトビアの製造者と日本の自動車会社の間で築き上げることができます。私たちはトヨタ、三菱と接触を始めましたが、互恵的な協力ができることを楽しみにしています。

2) 電子工業

ソビエト時代、ラトビアは電子工業、コンピューターシステム、軍事システムなど、知識集約高度技術産業の中心地でした。古いソビエト組織が崩壊しても、その能力とノウハウは独立したラトビア経済に溢れ広がりました。ラトビアの電子産業は大半が輸出指向であり、世界レベルの競争力があることを示しています。中国の労働力は確かに安いですが、コストパフォーマンス率ではラトビアが優っています。ラトビアの専門家は電子工業生産に必要な高度な熟練を十分備えています。

さらに、生産や最終電子製品の組み立てをラトビアで行うことで、日本の製造会社は低い関税や他の輸入障壁を除く恩恵を受けることが出来ます。

3) 輸送・物流

最後に、そして最も重要なものとして、輸送・物流の分野で協力できる広い潜在力があることを申し上げます。ラトビアは、自然資源に恵まれず、競争力の源は主に二つの要素から成り立っています。一つは人材、もう一つは地理的位置です。これらの要素を生かすことで世界に伍した輸送産業を生み出し、GDPの10パーセント、雇用の8パーセントを占め、ラトビアのサービス産業による輸出入収入の60パーセントを稼ぎ出して

います。

ラトビアは、ソビエト連邦の欧州の玄関口として卓抜した輸送インフラを受け継いできました。三大不凍港があり、発達した鉄道ネットワークはロシアの鉄道と完全に繋がっており、大容量の貨物輸送に適しています。伝統的に東西間の海上輸送には安全に対する懸念があり、そのために欧州・アジア間の陸上輸送が急速に伸びています。新しいシルクロードが出来つつあると言えます。トランスシベリア鉄道からラトビアの港湾を利用して西欧に輸出することで、日本の輸出業者は僅かなコスト増で輸送期間を45日から15日に短縮し、3倍の効率を図ることができます。同じようにラトビアの港湾は、日本が欧州で生産した製品の、ロシア及びCIS向けの大型輸送基地となることができます。さらに、多くの西欧の港湾と異なり、ラトビアの港湾にはターミナル拡張の広い土地があります。皆様がラトビアのシルクロードを利用されることを奨励します。

◇

皆様の暖かい歓待と興味を示してくださったことに心から感謝いたします。この素晴らしい機会に、日本とラトビアの深い協力への道が開かれ、ビジネスが成就されるよう願っています。ありがとうございました。

【翻訳 中嶋勝彦（会員）】

短 信

東川町主催の写真展、成功裡に終了



ラトビア交流と写真の町で知られる北海道東川町が主催した写真展「海外作家コレクション」（6月1日～18日・東京都写真美術館＝本紙既報）が盛況裡に終了しました。写真は5月31日オープンセレモニーのスタンプで、右から飛騨野さん（父上が90歳現役写真家）、松岡町長、中山恭子早稲田大学教授（外務省で拉致問題に貢献した）、グナ・マンド加藤専務理事

大鵬薬品の抗がん剤

大鵬薬品工業（小林幸雄会長）は7月4日、主力の経口抗がん剤「ティーエスワン」のアジアを除く世界での開発販売権を製薬大手の仏サノフィ・アベンティスに供与すると発表しました。

「ティーエスワン」は胃がん、結腸・直腸がんなどの治療薬として国内でも販売されている。がん細胞の増殖を抑制する働きを持ち。吐き気などの副作用を軽減したのが特徴。同社は今回、契約一時金と開発の進展に応じた成功報酬として3億6千万ドル（約4百12億円）を受け取る。製造は大鵬薬品が担当し、売上高に応じたロイヤルティ収入も得る。（日本経済新聞から抄録）

同社には「Latvija」に広告出稿など、当協会に深い理解を頂いています。

NHKがラトビアのTV番組紹介

世界の人気番組を紹介するNHK BS2「ネクスト」が7月9日、ラトビアの番組「大ワンダーランドショー」「おめでとうございます」「物事を横から見る」「地方」などが取り上げられた。ゲストに早稲田大学大学院生で照明デザイナーのカタリーネ・リエクステニャさん、元ラトビア共和国外交官吉田ラマズさん、来日7年目のスオルピータ・クラビーナさんが参加し、流暢な日本語で番組を盛り上げた。

📰 新聞・雑誌のラトビア情報

日本ラトビア音楽協会主催 第1回合唱指揮者交流プロジェクト (Harmony 06春季号)

バルト諸国出身の音楽家は数多く世界で活動している。マリス・ヤンソンス、ゴドン・クレームル、ネール・ヤルヴィ、パール・ヤルヴィ…そして合唱団の数々。有名なソング・フェスティバルはユネスコ指定の文化行事となっている。

そんな国々のひとつ、ラトビアと日本を結ぶ音楽協会が2004年秋に設立された。

◇

その主催事業として、国際交流基金の援助を得て今年1月に行われたのが合唱指揮者交流。まず日本側から私(松原千振)がラトビアに赴き、リーガ・カテドラル少女合唱団と5日間活動を共にした。行事の正式名称は「指導者のための合唱マスタークラス」。参加者はラトビア各地の合唱指揮者・音楽教師約50人で、合唱団の公開練習、日本の合唱に関するセミナー、ラトビアの合唱セミナー、発声の講座、カルチャープログラムなどであった。

リーガ・カテドラル少女合唱団は、リーガ・カテドラル合唱学校に属する合唱団で、同校には少年合唱団もある。合唱団員は規則的な練習に加え楽器のレッスンも受け、ふつうの授業も行われている。

今回のプログラムは、日本とラトビアの交流が目的であったため、両国の合唱曲のみに絞られ、間宮芳生、小倉朗、小林秀雄、千原英喜の作品、ラトビアからはラミンシュ、ブラキデイスなどの作品が取り上げられた。有能な合唱団であり、日本の作品に対する違和感はまったくなく、楽譜を手にした昨年11月から練習はスムーズだったようだ。また、日本語も自然で、行き届いた練習が進んでいたと思われる。

折からラトビアは厳冬まった中で、マイナス25度という日が続き、修了コンサート直前には風邪で3人休養やむなさに至った。寒さのため、コンサート会場も当初計画されていた教会から変更し、ラトビア・ソサイエティホールで行われた。

しかし、行事には各方面の関心が寄せられ、新聞やテレビの収録、FMの音楽番組の制作も行われた。また、修了コンサートにはラトビア駐在の日本大使、アヴェ・ソルの指揮者イマンツ・ココーシュ教授も来場くだ

さった。

◇

日本ラトビア音楽協会は、現在会員数約130人。年4回の会報発行、多面的な情報提供などの活動、そして11月には合唱指揮者交流プロジェクトの2回目として、リーガ・カテドラル少女合唱団、Dzintars指揮者のAira Birzinaさんを招き、NHK東京児童合唱団との活動を計画している。※日本ラトビア音楽協会へのお問い合わせは加藤晴生専務理事(Tel 04-7132-5423)まで。

(松原千振)

ラトビアは「良登美野」 初の本格漢字辞典編集 (5月22日 朝日新聞夕刊)

バルト3国のひとつ、ラトビアの日本語研究者が、日本の漢字をラトビア語で解説した初めての本格的な日本語学習用の辞典を編集した。91年に旧ソ連から独立したラトビアは

ラトビア情報

カットアイさんからの便り

冠省 先日「Latvija第4号」を戴きましたが、今までお礼の一言一語をしないで、誠に申し訳ありません。実は当地での気温変化(三寒四温?)のため風邪を引いて、酷い咳が出ました。あまり外出しないで、拙宅で閉じ籠って上記の新聞の精読に没頭しました。大変勉強になりました。例えば、第1ページに記された「健啖」と言うのは何でしょうか? 大分前に加藤大兄から送って下さった「漢和辞典」のページを繰って、初めてこの熟語の意味が良く分かりました。生命ある限り学び続けよ! 中国語で「活到老、学到老」!

“Dzintars” 関係のニュース

団体は4月中旬にイタリアへ出発しました。その旅行の目的はLORETO市に於いて国際宗教音楽祭典に参加することです。女性は15年ぶりにデザイナーOdetta Bizmaneが作られた全く新しい煙色の衣裳を着て「お洒落」することが出来る!

尚、ひまがあって小生の本棚を整理しました。廃れたあまり役に立たない資料が沢山たまりました。これを「護美箱」へ送りたいと決心しました。しかし、一冊の扉を見て、心が痛みました。亡くなられた熊谷直博氏の小生宛の献詞です!

ラトビアの誠実なる友のご冥福を

4月に駐日大使館を開設。語学学習を通じて両国の交流促進を加速させようとしている。

辞典をまとめたのは首都リガにある「日本語文化学習所」のプリギッタ・クルミニャ校長(62)。大使館開設で同国のカルピディス首相が来日したのに同行し、4月21日に国際交流基金・日本語国際センター(さいたま市)を訪れて、辞典2セットを贈った。

辞典はラトビアに「良登美野」の漢字をあて、「和良学習漢辞典」と名付けた。2巻あり、1巻では仮名文字の解説や漢字の音読み、訓読みなどを概説。2巻では画数や読みなどで漢字を引いて、ラトビア語で意味がわかるようにした。収録されたのは3万8千語に及び、教えずや日本の研究者の協力を得て約8年をかけたという。

日本語との出会いは学生時代。69年に大阪万博の準備で首都リガを訪れていた日本人と出会ったのをきっかけに文通を始めた。本や教材を送

ってもらい、独学で日本語の学習を始めた。旧ソ連時代の本職は、記録映画や教育映画の監督業で、好奇心が旺盛だったことも日本語上達を後押ししたという。「日本語の本が送られてくると、KGBが中をあけて、『映画監督になぜ日本語が必要なのか』といぶかしがられた。私は『ゾルゲのようなスパイになるためです』と返すと、笑って渡してくれた。トラブルをさけるにはユーモアが一番です」と笑う。

ソ連崩壊前後の混乱で監督業の仕事は少なくなった。90年に得意の日本語の知識を生かして、子ども向けの日本語学校を開設。次第に父母や、俳句研究者など、関心をもつ大人たちも入学を希望するようになり、本格的な日本語学校へと発展したという。

「まだ、多くのラトビア人は日本に対して、『芸者』や『空手』といったイメージしかありません。この辞典で学習し、正しい日本の姿を理解できるようになってほしい」とクルミニャさんは話している。



折って、その本を永遠に保存することを約束致します。

不忌

2006年4月24日

於リーガ市

Edgars Kattai

(熊谷さんから贈られた本の扉に書かれた私への献詞)

カットアイさん

リガに初めて参りました。カットアイさんにお会いして光栄でした。日本とラトヴィアの為に頑張りますので今後とも宜しくお願いたします。

1992・8・21 熊谷直博

第2回指揮者交流プロジェクト続報

11月にB.アイラ女史来日決定、NHK東京児童合唱団を指導

当協会事業の指揮者交流プロジェクト第2弾は、リーガ・カテドラル少女合唱団・女声合唱団ジントラルスの指揮者、アイラ・ビルジーニャ女史を招聘し、NHK東京児童合唱団を指導します。スケジュールは11月17日から28日まで日本に滞在し、3~5回の指導・リハーサルを行い、26・27日にタケミツ・メモリアルホールで開催される同合唱団の定期演奏会で成果を披露することになります。

同合唱団サイドと選曲の打ち合わせもほぼ完了しました。N児がラトビアの合唱曲に挑戦します。アイラ女史は日本滞在中に出来るだけ多くの合唱関係者・団体と懇談を希望するなど、実りある交流が期待されます。

現時点(7月23日)ではまだ流動的ですが、ライモンズ・パウルス氏がアイラさんに同行する可能性が強くなっています。もし実現すれば、アイラ女史のステージで同氏がピア

ノ伴奏することになります。パウルス氏は「百万本のバラ」作曲などであまりにも有名なポップス作曲家。ラトビア独立後、文化大臣などを歴任し大統領候補にもなるなど同国ではその名を知らぬ人はいない国民的人気を持つ人物でもあります。文化大臣時代に来日してピアノ演奏したこともあり、実現すれば大きな話題を呼びそうですが、まだクリアしなければならぬ課題も残っています。

この事業にはP.ヴァイヴァルス大使も大きな関心を持ち、演奏会に臨席の予定です。

◇

第1回交流プロジェクトで厳冬のラトビアへ赴き大成功を収めた松原千振氏が7月、東京混声合唱団を率いてラトビア、エストニア公演を行い多くの聴衆に感銘を与えました(18日帰国)。リガでアイラ女史と再会し、東京でのスケジュールに関して具体的な意見交換も行われました。

TOPICS

ラトビア大使、ボーイ・スカウトの縁で
富士市を親善訪問

6月10～11日の両日、ペーテリス・ヴァイヴァルス初代ラトビア大使が、斉藤斗志二衆議院議員の招待により、同議員の地元富士市を公式訪問した。大使が新幹線富士駅に到着すると、地元ボーイスカウトの関係者多数がラトビアの大旗を掲げて歓迎、初の地方訪問を行ったラトビア大使を感激させた。大使はその後、祇園祭りにでぎわう富士市で開かれた斉藤代議士主催の盛大な歓迎レセプションに出席した。

ヴァイヴァルス大使が富士市を訪問したのは、日本とラトビアとの間に不思議なボーイ・スカウトを通じた親善があったためである。1968年、静岡で長くボーイ・スカウトの指導者をしてきた川島泰彦氏は苦学してシアトルへ留学した。しかしながら当時米国での留学は容易なことではなく、移民局より保証人を探してくるよう求められあてもなく困っていた。そのような川島氏を偶然助けてくれたのが当時YMCAに勤務していた亡命ラトビア人のペリザード・ラジン氏であった。偶然ラジン氏もラ

トビアのボーイ・スカウト創設期の指導者であったこともあり、川島氏に保証人を探してくれた他、親身になって励まし助けてくれた。これが機縁となって2人はラトビアと日本を語りつつ深い友情を育んだ。

ラジン氏は1930年頃、ラトビアの農業副大臣も勤めたほどの大物エリートのものであったが、1941年、ソ連軍が侵攻してくると抵抗、その後英国を経由して米国シアトルに亡命していた。同氏は日露戦争の歴史にも詳しく大の親日家であり、絵画文学哲学だけでなく音楽にも卓越した教養をもち、ショパンとリストの演奏の差異についても話題にする人物だった。そしてラトビアに話題が及ぶと顔を曇らせて「祖国ラトビアは滅んだ。しかしいつか必ず蘇る」と信念を述べる愛国者でもあった。しかしながらラジン氏は74年に急逝、その際家人から川島氏に遺品にとラジン氏が生前ボーイ・スカウト創設者パウエル卿から授与され命よりも大切にしていた最高勲章「シルバー・ウルフ」が友情の証にと託され

た。川島氏はこの勲章を大切に保存していたが、その後1991年にラトビアが独立を果たしたこと、またラトビアにボーイ・スカウトが再建されたことから、ラジン氏の祖国への想いを察し返還することを考えるようになった。このため生前ラジン氏と面識もある斉藤議員や同志と相談しつつ、ラジン氏の遺族をさがし出し、このラトビアの名譽ある勲章を返還することを切望するようになった。このようなことから斉藤代議士は在スウェーデン日本大使館やラトビアにある日本大使館を通じラジン氏の遺族を見出そうと奔走したが、遺族は死に絶えたのか見出せなかった。このような背景の中で明2007年に英国でボーイ・スカウト創設100周年大会が開催される予定があることもあり、その機会にラトビア側のボーイ・スカウトにこの勲章を返還しようということとなった。またその後出来れば日本の若いボーイ・スカウトの人々を引き連れて、ラジン氏の故郷ラトビアを訪問し、ラジン氏と川島氏が礎を築いたラトビアと日本との友好親善を若い人々に継承させたいという企画も検討され始めた。

ヴァイヴァルス大使はこのような計画の打ち合わせのため招待されたが、同大使は歓迎レセプションで「これはラトビアと日本との間に素晴らしい友好親善があったことのあかし。今後は自分が直接ラトビア側と

の連絡にあたり両国の友好親善を促進したい」と抱負を語り富士市の代表とボーイ・スカウトの人々を喜ばせた。このニュースは朝日新聞とヘラルド・トリビューン紙に大きく報じられ話題を呼んだ。

随想：「ラトビアの悲運」

筆者はラジン氏の遺族の調査を手伝った。信じられないことだが1930年にかんがりの大物であったラジン氏の消息を知る人がこれまで一人も見つからないのである。ラジン氏は「謎の要人」となっているが、それはラジン氏の家族や知人全てが戦争、処刑、流刑で全滅あるいは死に絶えたためかも知れない。ラジン氏は寡黙だったと言われる。その寡黙さと諦念の背後には想い出すのも恐ろしい悲運があったに違いない。これまでラトビアを含むバルト諸国は近隣の大国に何度も蹂躪され民族としてのアイデンティティをズタズタにされてきた。ヨーロッパの戦略的要衝にあるため強国の抗争の狭間でどうにもならない運命を甘受させられてきた小国ラトビア。ラジン氏の背中にはこんな歴史が横たわっている。これが等身像のヨーロッパでありまたラトビアなのではなかるうか。頭を挙げてかなたを想い、頭を垂れてアジアを憂う。深き想いを掻き立てられるエピソードである。

(S.T記)

ヴァイヴァルス大使

天皇陛下に信任状捧呈 7月10日

7月10日、ヴァイヴァルス大使が天皇陛下にフレイヴェルが大統領からの信任状を捧呈した。外交慣例上ではこの日から大使として公式活動を開始することになる。

伝統に則り、天皇のお使い（式部官）が2台の車にラトビア国旗を掲げて公邸から東京駅貴賓室に案内、ここから馬車で、沿道に警官

200名が警備する中を静々と宮中に案内された。天皇に大統領の書簡言上式典が終わると再び馬車で東京駅まで送られるという最高の礼で大使を迎える慣例。礼服に身を包んだ大使は、「言葉にならない感動。宮中内の静けさ、シンプルな建物内にあのようなディグニティを感じたことはない」と感極まった様子だった。

(下右) 信任状捧呈は宮中から馬車で東京駅へ出迎える
(上) 東京駅から宮中へ、カメラに微笑む大使の顔が見える
(下左) 終了後公邸で祝杯を上げる大使館員



第九のふるさと

バルトの楽園・
BANDOROケ村
～歓喜の郷～

第一次大戦中、四国にあったドイツ兵俘虜収容所で初めて「第九」が演奏された時の史実に基づいて作られた映画『バルトの楽園』が6月に封切られて話題になりました。この舞台となった徳島県鳴門市坂東にある「鳴門市ドイツ館」はドイツと坂東の人々との友好の架け橋として親しまれています。この映画の撮影は昨秋2ヶ月間にわたって行われましたが、総工費3億円をかけたセットがそのまま『バルトの楽園・BANDOROケ村～歓喜の郷～』として保存され3月21日にオープン公開、「第九のふるさと」として音楽ファンの人気を集めています。映画は松平健演じる松江豊寿俘虜収容所長や坂東の人々のとの暖かい交流が描かれていますが、当時の俘虜の生活の場がそのまま再現されています。第九シ



第九シスター 実物大の人形が当時の音楽活動が紹介する

ターでは実物大のドイツ兵人形が第九演奏を聞かせます。撮影の時は多くの県民エキストラや市民ボランティアが「もてなしの心」でサポートし、大正時代に繰り広げられた国境を越えた交流は現在も地域の誇りとして息づいているようです。ついでがあれば是非立ち寄られて新たな体験をされては如何でしょうか。

詳しくはホームページで、「バルトの楽園」ですぐ検索できます。※この情報はフラウリッヒ・ヴォカール（6ページ参照）の主要メンバー、椎野寿子さんから寄せられました。メンバーともども、「08 歌と踊りの祭典」参加に意欲を燃やしておられます。

コンサート案内

ラトビアが生んだ美しき才能
バイバ・スクリデ
ヴァイオリン・リサイタル

【当協会後援】

9月21日(木) 19:00開演

浜離宮朝日ホール

曲目

シューベルト：ソナチネNo.1
ベートーヴェン：ヴァイオリンソ
ナタNo.9「クロイツェル」
ラヴェル：ヴァイオリンソナタ



マリス・ヤンソン、ギドン・クレーメル、ミッシェル・マイスキーなど現在を代表する音楽家を輩出して



いるラトビアの新星。92年に11歳でハーグ国際コンクールに優勝、以降数々の国際コンクールで優勝して注目を集めた。01年エリザベート王妃国際コンクールで優勝し、国際的ヴァイオリニストとしてのキャリアが始まった。97年、99年に北海道東川町の招聘で来日し、北海道各地で演奏会を開いて人気を集めた。

妹のピアノとデュオ演奏

今回の来日ではピアニストで妹のラウマと共演する。音楽一家に育った才能豊かな美貌の姉妹のデュオ演奏が話題を呼びそうだ。

入場料 5000円 学生2000円
※学生席はコンサートイマジンのみで取り扱い。

【問い合わせ】03-3235-3777

早稲田を代表する音楽2団体
(グリーンクラブ・交響楽団)の
コラボレーション・コンサート
【当協会後援】

9月18日(月・祝) 19:15開演

上野文化会館小ホール

曲目

男声合唱「日本名歌曲選」他
モーツァルト：ヴァイオリン協奏
曲No.3他

特別出演

白井 朝 (ヴァイオリン)
山本健二 (バリトン)



早稲田の音楽を牽引した両雄、早稲田大学グリーンクラブと早稲田大学交響楽団の現役が、それぞれのOBと

一体になって早稲田音楽の伝統・魅力を具現する。早稲田に音楽活動が始まって100年。この2団体はかつて合同でシヨスタコーヴィツ「パピヤール」を本邦初演して音楽界に驚愕を与えたパワーも秘める。

この日は若々しい1年生とオールドシニアが和気藹々と共演し、文字通り祖父と孫の世代コラボレーションも実現する。ヴァイオリンの白井朝は、白井克彦早稲田大学総長(当協会会員)夫人、バリトンの山本健二も当協会会員。

入場料 3000円(収益は全て早稲田大学創立125周年記念事業に寄付)

【問い合わせ】090-7014-0002(加藤) 又はFAX04-7132-5423

ラトビア合唱曲も演奏します
フラウリッヒ・ヴォカール
2ndコンサート

【当協会後援】

11月3日(金・祝) 14:00開演

徳島文化センター

曲目

西村朗曲「秘密の花」
木下牧子曲「うたをうたうとき」
松下耕編「ルロイ・アンダーソン・コレクション」
ラトビア女声合唱曲集
イエヴィーニャ
ラトガレ
メロディー
娘たちよ夜に歌え(打楽器あり)
マーラの与えた人生



結成13年目を迎える徳島の女声グループ。団員24名。ポリフォニーから邦人作品まで中



広いエパトリーを持つが今回は「イエヴィーニャ」「ラトガレ」などラトビアの合唱曲を取り上げる。代表・指揮の赤池喜代さんから編集室に便りが届いた。

「3年前、夫がたまたまたラジオで聴いたものを薦めてくれたのが始まりでした。それはリーガ室内合唱団《アヴェ・ソル》のものでした。言葉も分からない、ラトビアってあのバルト3国の?...。しかし、その懐かしさも暖かい、心に響く旋律とハーモニー、さらに「歌う革命」のくだけは私を夢中にさせました。手に入る楽譜を取り寄せ、言葉を調べて、団の仲間と新しいレパートリーに挑戦しようと熱く語りました。いつか演

奏会をする時にはぜひともこの素敵な音楽を徳島の皆さんに紹介したいと願っていました。北海道東川町ラトビア交流協会の皆さん、ラトビア在住の黒沢歩さんにいろいろ教えていただきました。また今回、日本ラトビア音楽協会のお仲間に加えていただき、さらにラトビアが近くなったように感じられます。良い演奏が出来ようもっと勉強したいと思えます。お近くの方、ぜひいらしてください。

【問い合わせ】TEL 088-632-6295

ラトビアの新進気鋭
ソルヴェイガ・サルガ
ピアノ・リサイタル

【当協会後援】

10月30日(月) 19:00開演

新宿オペラシティ

曲目

武満徹「雨の樹素描」
イヴァノフ「ソナタ・プレヴィス」
自作の「ソナタ・ファンタジア」
ヒナステラ「ソナタNO1」
ショパン「革命のエチュード」他
リスト「ラ・カンパネラ」他

古き良き19世紀の伝統を今に

ソルヴェイガ・サルガは1973年リガ生まれの新進気鋭の女性ピアニスト兼作曲家。8歳からダールジンス音楽学校、ラトビア音楽アカデミーなどでピアノ・作曲を学ぶ。ニューヨークのプリテン・オン・ザ・ベイ国際ピアノコンクールで幻想風ソナタ「何処へ?」が入賞、当地で楽

譜が出版される快挙を成し遂げた。ピアニストとしても欧州を中心に多くのソロコンサートを行い、02年から自作を含むCD4

タイトルをリリースしている。「ソナタ形式は私たちの時代も生きている」という考えのもと、注目に値する作品を発表しながら、ピアノ演奏でも作曲家らしい緻密で内容豊かな音楽を表現する。

日本は今回が初公演で、自作を含む現在のピアノ音楽と、ショパン、リストなど19世紀の大家の名曲を弾き分ける。

入場料 前売4000円 当日4500円



ペア7000円

【問い合わせ】03-3330-1232(コウスキミュージックアンドサウンド)

エストニア民族舞踊団

『ソプラス』

初来日して好評博す

この号に案内が間に合いませんでしたが、エストニアの伝統的な民族衣装に身を包んだ踊りと音楽のグループ「ソプラス」(音楽団5名含む21名)が7月上旬に初来日し、東京(7月6日・タワーホール船堀)、長野、北海道などで公演して好評を博した。8月にはエストニア混声合唱団が来日し、広島(18日)、高知(19日)、京都(21日)で公演する。

【問い合わせ】048-477-5777(日本エストニア友好協会)



柳 貞子「私のファド」

スペイン 歌曲の第一人者で数々のCDを残している柳さんは、ポルトガルの民謡歌「ファド」の日本における開祖としても知られる。今回発売したCDは、哀極極まりないファドから12曲を選び、ポルトガル語と日本語を取り混ぜてポルトガル人独特の切ない懐かしさを見事に再現した。ファド専門もギター・デュオ、マリオンネット(湯浅隆・吉田剛士)の伴奏が雰囲気伝えて絶妙。「私のファド」は44年前、リスボンのエストリルで日本人として初めてファドを歌って以来、ファドを思い続け、歌い続けながら長年暖めていた企画という。

詳しくはHPで。「柳貞子」で検索できる。柳さんの夫君は当協会会員の館野美久氏。

滝沢文一さんが
ロシア映画出演

毎日新聞記者から、ロシアのリャザン国立教育大学教授に転身した滝沢文一さん(当協会会員)が、ロシア映画「ジザイ」に主演で出演し、このほどDVDも完成した。ところがさらに驚くニュースが飛び込んだ。TBSラジオに「口笛演奏」で出演したという。記者時代を知る編集子にとってはまさに連続サプライズだが、どちらも素人の域を遙かに超えている現実にまた驚いた。

新入会員ご紹介		(前回掲載以降)
(個人会員)		
田中 亨	東京	前ラトビア駐在臨時代理大使
石渡 迪康	千葉	青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会
秦 フ サ		
中村 昭貞	東京	東京稲門グリークラブ
井下 佳和	北海道	北海道東川ラトビア交流協会
赤池 喜代	徳島	女声合唱団 フラウリッヒ・ヴォカール
(団体会員)		
女声合唱団 フラウリッヒ・ヴォカール 徳島		

当協会主催

大使館開設とヴァイヴァルス大使を歓迎する会

日時 10月1日(日) 正午開会

場所 新宿三井クラブ(新宿三井ビル54階)

出来るだけ多数のメンバーが参加して、和やかな雰囲気です。祝福と歓迎の意を表したいと思っております。詳細は別途連絡しますが、スケジュールを空けておいて下さるようお願いいたします。なお、持ち回り理事会で、大使を当協会名誉会員に推薦することが決まりました。

専務理事 加藤晴生

うと感じました。

○…第2回指揮者交流事業を成功させようと、加藤専務理事と相談して名刺広告を企画しました。ご協力ありがとうございました。他にも数名の会員から「広告は出さなくても良いが趣旨に賛同します」と同額を送金いただきました。ライモンズ・パウルス氏を招こうと加藤専務が深夜現地と折衝していますが、現時点でまだOKの返事がありません。

○…紙面の都合でコラム「琥珀」はお休みします。徳島のフラウリッヒ・ヴォカールがラトビア合唱曲に取り組む姿にとても共感を覚え、触れるつもりでした。良いコンサートになるよう祈ります。(徳)

情報断片

○…今号は大使館開設とヴァイヴァルス初代大使の紹介に多くページを割きました。大使としての威厳と気さくな人柄を併せ持つ、とても魅力

的な方です。インタビューの前に私的な名刺(柔道新聞編集長)を見て、「ラトビアにも柔道の強い選手がいます。オリンピックでメダルを獲得したゼロニーをご存知ですか」と質問され、不覚にもド忘れしてしま

た。帰宅後調べたらシドニー五輪73kg級の銅メダリストでした。この日は音楽の話を中心に進めましたが、どんな質問にも笑顔で的確に答える大使に圧倒されました。謙遜されていましたが、歌もきっとお上手だろ

暑中お見舞い申し上げます

<p>日本ラトビア音楽協会</p> <p>会長 藤井 威</p>	<p>日本ラトビア音楽協会</p> <p>副会長 岡村 喬生</p>	<p>平成ビジネスアソシエイツ株式会社</p> <p>常務執行役員 加藤 晴生 (日本ラトビア音楽協会専務理事)</p> <p>〒107-0052 東京都港区赤坂2-16-13 赤坂京ビル3階 TEL 03-3568-7227 FAX 03-3568-7229</p>
<p>藤井 明子 (うたかるた)</p>	<p>北海道東川ラトビア交流協会</p> <p>会長 西原 義弘</p> <p>〒071-1426 上川郡東川町北町1-7-1 東川海岸センター TEL 0166-82-4600 FAX 0166-82-4607 E-mail nisisan1@msn.com</p>	<p>かどたに内科医院</p> <p>院長 角谷 仁</p> <p>〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-8-28 TEL 078-841-3157</p>
<p>(有)ケイ・エム・エス・コーポレーション</p> <p>代表取締役 山本 徳行</p> <p>北九州市門司区西海岸1-2-18 TEL 093-322-1123 FAX 093-322-2525 E-mail consul-y@shive.ocn.ne.jp</p>	<p>福島県芸術文化団体連合会副会長 福島県吹奏楽連盟副会長 梁川交響吹奏楽団音楽監督</p> <p>作曲・編曲・指揮 板垣 忠直</p> <p>〒960-0102 福島市鎌田字舟戸17 TEL 024-553-2745 FAX 024-554-0647 E-mail yanakyo@db.dion.ne.jp</p>	<p>07年1月5日(名古屋)、6日(西宮)、7日(東京)のリサイクルでお目にかかれまますように。</p> <p>ピアニスト 風呂本佳苗 (在ロンドン)</p> <p>E-mail kanae@btinternet.com</p>
<p>桜友女声合唱団 (共立女子大学合唱団OG)</p> <p>武蔵野市吉祥寺東2-26-4 八木昌子方 TEL 0422-22-3888 E-mail myagi@parkcity.ne.jp</p>	<p>情熱の詩人・エセーニン、ベル、 唾液実験のバプロフ博士の故郷 リヤザン・ロシア国立教育大学教授 滝澤 文一</p> <p>E-mail buninwada@hotmail.com</p>	<p>東京ディズニーリゾート・オフィシャルホテル サンルートプラザ東京</p> <p>総支配人 迫 秀一郎</p> <p>〒279-0031 千葉県浦安市舞浜1-6 TEL 047-355-1111 FAX 047-350-0128 E-mail sako@sunroute-plaza.co.jp</p>
<p>中小規模建築の設計・住宅性能評価 辻田建築事務所</p> <p>一級建築士 辻田 行男</p> <p>〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮7-32-15 TEL & FAX 048-683-9530 E-mail happy-person@jcom.home.ne.jp</p>	<p>ヤマト科学株式会社</p> <p>代表取締役社長 森川 智</p> <p>〒103-8432 東京都中央区日本橋本町2-1-6 TEL 03-3231-1110 FAX 03-3231-1148 E-mail morikawa@yamato-net.co.jp</p>	<p>日本経済新聞社友 斎藤 哲</p>
<p>山本 健二</p> <p>〒277-0855 千葉県柏市南柏1-3-5-606 TEL 04-7147-9542</p>	<p>清水 信行</p>	<p>魚住コーラス「わかくさ」</p> <p>指揮者 嵯峨山まり子</p>
<p>神戸中央合唱団</p> <p>団長 北畑 雅敏</p>	<p>遠藤税理士事務所 税理士 遠藤守正 (早稲田大学グリークラブ) 昭和37年卒</p> <p>〒229-0014 神奈川県相模原市若松1-14-10 TEL 042-745-3334 FAX 042-740-4725 E-mail 0424668801@jcom.home.ne.jp (日本ラトビア音楽協会事務局)</p>	<p>日本柔道新聞社</p> <p>柔道新聞編集長 徳田 浩</p> <p>〒169-0051 東京都新宿区西早稲田3-31-6-504 TEL & FAX 03-3203-0363 E-mail htoku@paste.ocn.ne.jp (Latvija編集室)</p>

TAIHO 大鵬薬品

愛情一本。



チオビタ®・ドリンク

滋養強壮・虚弱体質・栄養補給

[用法・用量] 成人(15歳以上)1日1回1瓶(100mL)を服用。タウリン1000mg 医薬部外品



チオビタ®
ドリンク



チオビタ®
ドリンク
ヘルシー